

地域に根差した 呼吸器在宅医療・介護の体制作り

—湘南東部医療圏での多職種参加型 「医療と在宅呼吸管理勉強会」の目的—

*Cooperation in the community of home-based respiratory medicine and care
The significance of inter health-care-professionals work shop “the management of home-based respiratory medicine
and care” at East Shonan district*

藤沢湘南台病院リハビリテーション科 科長補佐/
呼吸ケアサポートチーム チーム長

藤沢市民病院 診療部長/呼吸器内科部長

クローバーホスピタル 院長

藤沢湘南台病院 副院長/呼吸器外科部長

中島 活弥 Katsuya Nakajima

西川 正憲 Masanori Nishikawa

鈴木 勇三 Yuzo Suzuki

熊切 寛 Yutaka Kumakiri

Key words

呼吸管理, 勉強会, 多職種連携, 在宅医療, 在宅介護

Summary

湘南東部医療圏で「呼吸器に関心のある職種」を対象に参加を呼びかけ、多職種参加型「医療と在宅呼吸管理勉強会」を2015年2月～2016年3月に3回開催している。本会は呼吸器在宅医療・介護についての悩みや疑問、課題を共有し、お互いの理解と各々の解決への励ましにつなげることを目的とした。知識を深めるオープニングセミナーと悩みを共有・解決するグループワーク、パネルディスカッションで構成した。この会を通じて本来異

なる背景をもつ医療・介護の専門職が呼吸器在宅医療・介護連携の推進に向けて有効に機能するためには、「顔が見え、共通の言語を交わす」ことが必要不可欠であることがみえてきた。呼吸器領域に焦点を当てた多職種参加型勉強会は、参加者の専門性も向上させながら、参加者がこれまで以上に自信をもって心優しく丁寧に呼吸器疾患患者に関わることを可能とし、呼吸器疾患患者の在宅療養がより安心・安全になることに寄与すると考える。

はじめに

我が国の高齢化率は2040年には

36.1%にも達すると推計され、世界で最も社会の高齢化が進んでいる先進国の1つである。急性期病院だけでは医

療が完結できない病態や患者背景も増加している。複合的に多重疾患・複雑な病態を有する高齢者は稀ではなく、